

「多分、断りの返事を考えるのに時間がかかっているのかも。」

「仲良し友達に僕の手紙を見せて、笑いものになっているのではないか。」

「もしかして、もう、だれか心に思う人がいて、この間のことは、単なる僕の思い過ごしだったのでは。」

学校の授業にも、放課後のクラブ活動にも、まったく、僕は、うわの空だった。

友達が声をかけても、授業で先生が質問をしても、僕は、いつも、ボーとしていた。

「落ち着け、落ち着け。何事も時間がかかる。」

多分、二三週間は、彼女も考えて込んでいるかも。

どう、答えたらいいのか、悩んでいるかも。」

と、いい方に解釈した時もあった。

しかし、すぐに、「いや、世の中、そんなに甘くない。」と、悲観的になった。

僕の頭の中はまた真っ白になった